

上越市議会が初めて女性フォーラム開催

現職女性議員が「女性の議会進出」をめぐって意見交換

上越市議会主催の「女性フォーラム」が18日の午後、オーレンプラザで行われました。

基調講演は慶応義塾大学大学院准教授の谷口尚子さん。「女性が議員を目指しやすい環境作り」と題して40分ほど話をされました。谷口さんは講演のまとめの中で、女性議員を増やすには、①社会全体の意識改革、議員誕生と活動を支援する仕組みの必要性、②政治参加の入り口は関心のあるところから、③「社会的参加」も大事だが、「個人的意義」も大事だと、3点を強調されました。

パネルディスカッションでは、佐々木志津子見附市議会議員、上田市議会議員の池上喜美子さん、田上町議会議員の今井幸代さん、そして武藤正信上

越市議会議長がパネリストになり、どのようにして議員になったのか、議員として活動していくうえでの課題、今後の議会のあり方などについて発言しました。また、会場の参加者からの質問にも答えました。

この中では、「議員はまず現状を知ることが大事。そして市民の生の声を受け止め、話し合うことが大事だ」「相談できる相手がいるかどうか、話を聞いてくれる人がいるかどうか大事」、「2期目の時、出産で半年間議会活動ができなかった。代理投票制度があるといいなと思った」、「議員はほんとはもう

からない。交際費が増えて、手元に残る金はない」などの発言がありました。

女性が議員を目指しやすい環境づくりを具体的にどうするかをはっきりさせるには、もう少し時間をかけて議論する必要がありましたね。



イラストで見るイベント

左上：柿崎区黒川黒岩ふれあい祭り、左下：吉川山の上コンサート、上：大島区熊田ふるさとふれあい交流会、下：板倉区光ヶ原高原祭り（これだけ写真です）



【ツリガネニンジン】キキョウ科の多年草。漢字で「釣鐘人参」と書きます。今回、再掲したのは、花は白、花冠から突き出した花柱は紫色という花に初めて出会ったから。交雑によって、いろんな花ができるんですね。花言葉は「優しい愛情」「大切な思い出」など。写真は8月半ば、柿崎区にて撮影。



はしづめ法一の活動レポート

No.1922 2019.8.18

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

上越市議会が初めて女性フォーラム開催

現職女性議員が「女性の議会進出」をめぐって意見交換

上越市議会主催の「女性フォーラム」が18日の午後、オーレンプラザで行われました。

基調講演は慶応義塾大学大学院准教授の谷口尚子さん。「女性が議員を目指しやすい環境作り」と題して40分ほど話をされました。谷口さんは講演のまとめの中で、女性議員を増やすには、①社会全体の意識改革、議員誕生と活動を支援する仕組みの必要性、②政治参加の入り口は関心のあるところから、③「社会的参加」も大事だが、「個人的意義」も大事だと、3点を強調されました。

パネルディスカッションでは、佐々木志津子見附市議会議員、上田市議会議員の池上喜美子さん、田上町議会議員の今井幸代さん、そして武藤正信上

越市議会議長がパネリストになり、どのようにして議員になったのか、議員として活動していくうえでの課題、今後の議会のあり方などについて発言しました。また、会場の参加者からの質問にも答えました。

この中では、「議員はまず現状を知ることが大事。そして市民の生の声を受け止め、話し合うことが大事だ」「相談できる相手がいるかどうか、話を聞いてくれる人がいるかどうかが大事」、「2期目の時、出産で半年間議会活動ができなかった。代理投票制度があるといいなと思った」、「議員はほんとうにもう

からない。交際費が増えて、手元に残る金はない」などの発言がありました。

女性が議員を目指しやすい環境づくりを具体的にどうするかをはっきりさせるには、もう少し時間をかけて議論する必要がありましたね。



8月4日は中郷夏まつりでした。イラストはそのときのものです。当日は県消防大会の昼休みを利用して訪問、まちづくり振興会のOさんや市役所の職員さんなどと交流で話をしました。

中郷、板倉光ヶ原で夏まつり



【ツリガネニンジン】キキョウ科の多年草。漢字で「釣鐘人参」と書きます。今回、再掲したのは、花は白、花冠から突き出した花柱は紫色という花に初めて出会ったから。交雑によって、いろんな花ができるんですね。花言葉は「優しい愛情」「大切な思い出」など。写真は8月半ば、柿崎区にて撮影。



はしづめ法一の活動レポート

No.1922 2019.8.18

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

上越市議会が初めて女性フォーラム開催

現職女性議員が「女性の議会進出」をめぐって意見交換

上越市議会主催の「女性フォーラム」が18日の午後、オーレンプラザで行われました。

基調講演は慶応義塾大学大学院准教授の谷口尚子さん。「女性が議員を目指しやすい環境作り」と題して40分ほど話をされました。谷口さんは講演のまとめの中で、女性議員を増やすには、①社会全体の意識改革、議員誕生と活動を支援する仕組みの必要性、②政治参加の入り口は関心のあるところから、③「社会的参加」も大事だが、「個人的意義」も大事だと、3点を強調されました。

パネルディスカッションでは、佐々木志津子見附市議会議員、上田市議会議員の池上喜美子さん、田上町議会議員の今井幸代さん、そして武藤正信上

越市議会議長がパネリストになり、どのようにして議員になったのか、議員として活動していくうえでの課題、今後の議会のあり方などについて発言しました。また、会場の参加者からの質問にも答えました。

この中では、「議員はまず現状を知ることが大事。そして市民の生の声を受け止め、話し合うことが大事だ」「相談できる相手がいるかどうか、話を聞いてくれる人がいるかどうか大事」、「2期目の時、出産で半年間議会活動ができなかった。代理投票制度があるといいなと思った」、「議員はほんとうにもう

からない。交際費が増えて、手元に残る金はない」などの発言がありました。

女性が議員を目指しやすい環境づくりを具体的にどうするかをはっきりさせるには、もう少し時間をかけて議論する必要がありましたね。



吉川観光協会主催の「山の上コンサート」は11日でした。よさこいや踊り隊の人たちが盛り上げ、音楽グループ、「ヒナタスレ」吟遊詩人の皆さんが素晴らしい歌声を聴かせてくれました。



【ツリガネニンジン】キキョウ科の多年草。漢字で「釣鐘人参」と書きます。今回、再掲したのは、花は白、花冠から突き出した花柱は紫色という花に初めて出会ったから。交雑によって、いろんな花ができるんですね。花言葉は「優しい愛情」「大切な思い出」など。写真は8月半ば、柿崎区にて撮影。



尾神岳で「山の上コンサート」

はしづめ法一の
活動レポート

No.1922 2019.8.18

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五七〇回

大画面

写真をドーンと大きくしてみんなで見ると、楽しいもんですね。先日、大島区熊田の「ふるさとふれあい交流会」で取り組まれた、大画面で楽しむ「懐かしの写真展」で体験しました。

会場は熊田町内会集会所の二階です。町内会長さんが、壁に取り付けられた五〇インチのモニター（画面の大きさは縦六二センチ、横一〇〇センチ）のスイッチを入れて、パソコンに入った画像データ（写真）を見せてくださいました。

私が見たときは、多分、この日、最初の映写だったのでしよう。四、五人の人たちとともに、大きくなった写真を見ました。

大画面を見ていて、たくさんの方が最初にあがったのは花嫁行列の写真でした。「すごい」「みんな若いよ」などといった声が後ろの方から聞こえてきました。映像は、私も見た記憶がありましたから、昨年、パネルに貼ってあった町内会長さん夫婦の結婚式のときのものではないかと。

写真はスライドショーで映し出されていて、映写時間は一枚約三秒と短く、そのときは確認できなかったのですが、あとで見せてもらったところ、花嫁の口元、アゴのあたりがじつに若々しく感じました。

それにしても、四十数年前のこの結婚式、暑い日だったんですね。多くの人が扇子持参でした。最前列を歩く白いワイシャツ姿の男性は腰を曲げ、下を向いています。たし、花嫁のすぐ後ろの若い女性たちもうなだれて歩いているように見えました。

キャンプファイヤーの写真でも集会所の二階は賑やかになりました。画面がキャンプファイヤーに替わった途端、私の後ろで、「あっ、いた、いた。真ん中、オレだ」という声がありました。

どこかのキャンプ場での写真だと思いま

すが、親子キャンプだったようです。大きな丸太を組んで、中心部には板こつぱを縦に差し込んでありました。燃え盛る火のそばに二人の男の子がいました。まだ小学校へ上がったかどうかという年齢でしたが、自分の顔はわかるんですね。

大きな画面で映写して楽しむ会では、何よりも自分が出てくる写真が一番です。次いで自分の家族や近所の人たちでしょうか。身近な人たちが映し出されるたびに会場は盛り上がります。

大画面に映し出された写真は熊田での暮らしの風景がほとんどです。田んぼ仕事、結婚式、旅行、ゲートボールの試合、カラオケ大会などずいぶん多くの場面の写真が残っていました。

そのなかには、だいぶ前の旅行の写真も三枚ありました。うち二枚は大佐渡スカイラインへ行ったときのもの、もう一枚は松之山温泉郷で楽しんだときのものです。

いずれも少なくとも一〇数年は経っているのでしょうか。みんな懐かしい思いで映像をながめ、「あれはアラシキ（屋号）のじっちゃだ」「あれはヤマンキ（屋号）のばちゃ」「サカンシタ（屋号）のばちゃもいる」などという声が相次ぎました。そして

「昔の年寄りはよく旅行に行ったよね」という声も……。

スライドショーは約一〇分かかりました。九〇枚全部を見終わった段階で、熊田から三竹沢へ嫁いだY子さんが、「ありがとうございました。いいが見てもらった」と言って、一階へ降りて行かれました。この気持ちはみんな共通です。

子どもの頃、写真を何人かで顔を寄せ合って見て、大いに盛り上がった記憶があります。大画面で見た時も一緒。でも大きく映ると、楽しさもすっかりなくなりますね。

吉川区にコウノトリが飛来



「幸せを運ぶ鳥」として有名なコウノトリが上越市吉川区にやってきました。

写真は友人からの情報をもとに、17日午後5時半頃、赤沢地内にいた

コウノトリを私が望遠で撮影したものです。農道や田んぼの畦で餌を探している様子でした。

私の写真を見て18日、上越市歴史博物館の職員さんから、「間違いない」との連絡をいただきました。また、19日の午前、豊岡市コウノトリ共生課の担当者にも情報を提供し、写真を見てもらった結果、コウノトリと確認できました。

コウノトリは野生の個体数が176羽と極めて少なく、兵庫県豊岡市にある「コウノトリの郷」で繁殖、放鳥などの取組をしています。

上越市への飛来は8年ぶりのゆっくり過ぎしてほしいものです。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 8月7日(水) | 8月21日(水) |
|--------|---------|----------|
| 上越南消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 上越北消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 新井消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 頸北消防署 | 0.053 | 0.043 |
| 頸南消防署 | 0.057 | 0.057 |
| 東頸消防署 | 0.053 | 0.053 |
| 高士分遣所 | 0.050 | 0.047 |
| 名立分遣所 | 0.057 | 0.047 |

浄善寺の鐘楼、初めてみました

柿崎区の浄善寺を初めて訪れました。鐘楼には看板があって、「江戸時代のものは戦争の道具にされてしまいました。現在のものは戦後にあらためて造られたものです」と書かれていました。二度と戦争はしないという決意が出ていて、すばらしいと思いました。

